

1 活動の重点

年々厳しさを増す教職員の給与・処遇の中、退職後の再任用や再就職及び福利厚生を巡る情勢に対処・対応するため、県中学校長会や全国連合小学校長会、退職校長会等と連携し、情報収集や調査研究を行い、教職員の給与水準等の維持向上やライフプランニングのための要望活動に資する。

また、教職員の福利厚生にかかわる機関・団体との連携を通して、その改善・充実に資する諸活動、ライフプランにかかわる学習を推進し、教職員の福利の向上に寄与する。

2 活動の概要

(1) 県小学校長会として実施した調査研究活動

ア 校長給与の実態把握及び給与水準の維持向上を図るための要望集約 … 〈給与委員会〉

(ア) 全年齢の19%(昨年度21%、一昨年度27%)、経験年数では6年以上の62%(昨年度69%)が37号給である。定年退職者が最高号給に達しない割合も、最高号給に達するまでの校長経験年数も増えている。

(イ) 給与水準の維持向上を図るための具体的な要望は、「県財政難に伴う給与・手当の5%削減の早期解消及び回復措置の実施」「職責に見合った給与・管理職手当の増額」「安心して職務に専念できる退職金の支給」に集約される。

イ 校長退職後の再就職状況調査 … 〈福利第1委員会〉

(ア) 令和3年度末退職者を対象に実施した。再就職率は、平成29年度末退職者から80%と急上昇し、その後70～80%台で推移。令和3年度末には90%となった。自ら希望しての再就職者も、これまで70%前後であったが、令和3年度末退職者では80%となった。

(イ) 常勤の割合は、増加傾向にある。平成30年度末退職者までは30%台、令和2年度末退職者までは45%、令和3年度末退職者では53%となった。また、非常勤の勤務態様では、これまで同様、週5日勤務が多かったが、週3日勤務と同じ割合になった。

(ウ) 再就職への考え方は、令和3年度末退職者では、「ボランティア的」は33%、「生活資金確保」が67%となり、大きな変化はない。

ウ 年金制度、再任用や定年延長についての意識調査 … 〈福利第1委員会〉

(ア) 現職校長を対象に実施。年金制度に関してほぼ100%(昨年度70%)が「要望あり」と回答し、「年金・共済制度を堅持し、実質的に退職後の生活が保障される率・額の獲得に尽力してほしい」が56%と最多であった。

(イ) 「校長職としての再任用や定年延長についての考え」については、「個人の意思を尊重した上で校長職として再任用を認めるのが望ましい」が最多の42%(昨年度23%)、続いて「校長職としての定年延長を進める方が望ましい」が34%(昨年度33%)となった。「特別な事由がない限り、校長職としての再任用を認めない方が望ましい」が11%(昨年度22%)、「いずれとも言えない」が13%(昨年度22%)であり、定年後、定年延長後の意識の変化が見られた。

(ウ) 「定年延長や再任用が望ましいと考える理由」については、「さらなる理想実現のため」が39%、「重責を担い社会に貢献したい」がそれぞれ36%、続いて「経済的理由」が16%であった。(※対象428名)

(2) 県中学校長会等と推進した活動

ア 県内福利関係6団体(共済組合、互助会、厚生財団、新学協、新潟教弘、教職員共済)への要望集約と懇談会開催及び報告書の作成 … 〈福利第2委員会〉

※今年度は県小学校長会が担当。

・8月8日(月)に県小福利第2委員会・県中福利厚生対策委員会合同役員会(万代シルバーホテル)

・9月13日(火)に福利関係6団体との懇談会(万代シルバーホテル)

イ 福利広報「退職時の手続き一覧」の作成と配付 … 〈福利第1委員会〉

※今年度は県中学校長会が担当。